

# 神戸女学院岡田山キャンパスとりべラルアーツ教育

茂

洋

皆さんこんにちは。かつてから居られた方々とは久しぶりにお会いしますね。私は定年退職しましてからもう一三年も経っており、初めてお会いする方も半分以上居られますので、その方々にはおそらく今日、私の話を聞いていただくのが最初かと思います。でも、このような特別な機会が与えられて大変光栄に思います。一三年も経ちますと、私が居りましたときとは大分変わってきています。そこで、これからお話ししますことも、その変化については充分理解しているとは思えませんので、間違いがあることでしょう。その点お許しください。また、こういう歳になりましたので、だいぶ思い違いが多くなつて、皆さんに失礼があるかもしれません。これも許してください。

皆さんもご覧になつたと思いますが、NHKの教育テレビで「ヴォーリズ設計」の特集がありました。そのほとんどが神戸女学院の建物で、確かこの図書館の風景から番組が始まつたと思います。「日本一美しい女子大」というタイトルの、これは効果抜群の番組だつたと思います。その次週の日曜日の晩にまた再放送があつて、また最近もう一回再放送があるそうです。すばらしいですね。このとき東京大学の隈 研吾教授が、この建物に入ると何か包み込まれるようなすばらしい環境があるとおっしゃっていました。このことをめぐつて、これがどういうようにして出来上

がったのか話してみようと思います。

ご存知のように神戸女学院は、一八七五年に神戸に生まれました。明治八年のことです。五八年目の一九三三年にここへ移ってきました。それから数えますと既に七六年も経ちました。そういうことで、本題に入る前にどうして神戸女学院が神戸にできたかについて話しておきます。これは創立者記念日の講演でここ二、三年話していますので、何度か聞いていただいたかと思いますが、それを少しまとめてみます。神戸では、小さな建物も含めて二〇ほどの建物ができるのですが、それがどのように出来上がっていったのかを最初にお話します。そしてそのあと、大蔵谷という明石のあたりに神戸女学院を移す計画が実行に移される寸前までいきました。その時の設計図が最近出てきました、川島智生先生が論集に書かれました<sup>①</sup>。それを私も読ませていただいて、そこに既にリベラルアーツの考え方に基づいて建物が考えられていることを発見しました。そしてその大蔵谷の計画が全部変更されて、ここ岡田山に移ってくるんですね。ここに移ってくるときに設計をヴォーリズさん(William Merrell Vories)に頼み、その時の院長のデフォレスト先生(Charlotte Burgis DeForest)たちと一緒に教育理念とあわせてこの建物やその配置が出来上がったのです。あとでまた詳しく申しますが、土地に関しては大蔵谷の土地は同窓会で買ってくださいました。そしてここに移ったときにはそこを売り払ったのですけれども、岡田山の方がもちろん高かったです。そこで、竹中工務店の創設者がその差額を出してくれたので、神戸女学院の建物は比較的多く竹中工務店に発注する格好になったわけです。そういう背景で、いよいよ本格的な形になったこの建物を説明したいと思います。これだけを一時間でしゃべれるかどうかよくわかりませんが、できるだけ急いで話してみます。

今年（二〇〇九年）、横浜開港一五〇年が宣伝されております。一八五九年に神奈川藩が、幕府側はまだはつきり決まかねているのに、開港しました。これは去年のNHKの大河ドラマ「篤姫」の番組でもご覧になったと思いますが、一三代徳川家定（篤姫のご主人）、それから一四代家茂も兩人ともあいまいな形のまま、仕方がないということで、横浜を開港してしまったのです。それと同時にアメリカからやって来た宣教師がヘボン（James Curtis Hepburn）、この名前がどうして映画俳優だったらヘップバーンなのに、彼はヘボンなのかよくわかりませんけれども、このヘボンさんは、私たちと同じプロテストタントのピューリタンなんですけれども教派が少し違っています、この人はプレスビテリアン、長老派です。ヘボンさんが開港と同時に、日本で最初のプロテストタントの教会を作り、自分の家で聖書の翻訳や讃美歌の編集をなさったということになります。

神戸の開港、始めは兵庫開港だったんですけれども、その兵庫開港は横浜開港から九年遅れの、一八六八年です。ちよつと予備的に知っていただきたいのは、徳川幕府のときにこのあたりは何藩に属していたのか、おわかりですか。驚くなかれ、尼崎藩なんですね。尼崎、西宮から垂水までを尼崎藩、そこから向こうが備前藩です。この前尼崎市役所で聞いたのですけれども、そこをきっちり全部を支配していたのではなく、ところどころを支配していたのだそうです。あとで申し上げますけれども、尼崎藩主の家がこの岡田山の上にあつたのです。こういうことで神戸一带は尼崎藩が支配していました。神戸開港、兵庫開港の前年、一八六七年に孝明天皇が亡くなっています。これは毒殺ではないかという意見もあり、誰がやったのか、岩倉具視ではないか、という意見があり、これは興味深い話ですが、皆さんあとで自分で調べてください。次に明治天皇が即位するんですが、驚くなかれ、彼はまだ一五歳なんです。一五歳では政治的判断ができないので、あの明治の混乱期に誰が指導していたか。これはどう考えても岩倉具視が主役

だという風に考えられます。それでその同じ年に驚くなかれ、徳川幕府の最後の将軍、徳川慶喜が大政奉還をしてしまふんです。で、その直前に神戸開港を許可したのですね。そうすると諸外国はどう考えたかというところ、日本の主権は一体徳川が主なのか、天皇が主なのかがわからないのです。それで非常にもめるわけです。でも兵庫開港を決めた途端に、神戸は大変すばらしかったのです。それは、その居留地をイギリス人の設計者ハート(John William Hart)という人に設計を依頼したことです。今、神戸の大丸前の道路から海側のところまできちんと道路がついていますが、あれは一二六区に分けられたのです。今も道路はそのままです。横浜居留地の方は関東大震災で全部つぶれてしまったので、大栈橋という船の着くところだけはわかりますが、ヘボンさんの家はグランドホテルの裏だったはずなのですが、今、もうグランドホテルの裏が空き地になっていて、わからなくなっていました。ところが神戸の方は一二六区きれいに分かれていて、今でもどこが何番か、すぐわかるのです。そういう形で開港が可能になりました。でも残念なことに孝明天皇は開港反対でした。どうしてかというところ、ここを開港すると京都がやられると思ったそうです。孝明天皇は亡くなりましたけれども、明治天皇もあまり外国が好きではない。特に二人ともキリスト教が大嫌いだっただけです。そのために明治天皇が即位してからすぐ、「キリスト教邪宗門の定」(現物が図書館にあるんですけれども)を掲げて、キリスト教は邪宗教であるという宣言がなされました。そういう最中に明治天皇は明治二年に江戸城に入って、皇居としました。これは「篤姫」の最後の場面が無血開城で勝海舟が西郷隆盛との間で働いたことも出てきていましたね。このような歴史的背景があつたのです。

この神戸開港の一年あとの一八六九年に、今度は宣教師D・C・グリーン(Daniel Crosby Greene)が、この人もプロテスタントでピューリタンなんですが、教派のほうは神戸女学院と同じコングリゲーションナルです。先ほど申し上げた

ように、ヘボンがプレスビテリアン（長老派）ですけれども、グリーンさんはコングリゲーションナルで、会衆派とか組合派と呼ばれます。この外国伝道部をアメリカンボードというんですけれども、そこから派遣されてきました。このあたりの宣教師を見ますと、大変皆優秀な宣教師たちでした。神戸にやって来たD・C・グリーンは、居留地の一二六区は既に満杯で、ここには住めなかつたものですから、中山手六丁目、現在の中山手六丁目ですね、県庁のすぐ横ですけれども、その借家に住んで、伝道を始めることになりました。ちょうどその時にやっと日本は廃藩置県になります。二〇〇ほどあつた日本中の各藩が全部藩を廃止して七四の県になりました。そこに何人かの宣教師が神戸にやって来ます。デイヴィス (Jerome Dean Davis)、この人はのちに新島襄と同志社をつくる宣教師、それからベリーさん (John Cutting Berry)、この人はお医者さんで、神戸大学の医学部の創設者のような人なんですけれども、初めて神戸に病院を作った人です。この人の記念の銀杏の木が講堂のグラウンド側の藤棚の横に今もあります。そういうことで、これらの優秀な宣教師たちがグリーンさんを中心に神戸の北側、中山手辺りで（その当時まだ山本通はなかつたんです）活動を始めます。そこにタルカット先生 (Eliza Talcott) とダッドレー先生 (Julia Elizabeth Dudley) が来られます。一八七三年のことです。

実はその前にもう一つ大事なことがあるんです。先ほど申し上げたように、ここは尼崎藩なんですけれども、実は三田にある三田藩、これは九鬼隆義が最後の藩主なんですけれども、ここに勤めていた人たちが神戸にやってきて、そこで活動を始めるのです。非常によかつたことは、この三田藩の九鬼一族全部が攘夷派ではなく、開国派だったのです。そこに勤めていた有名人が、白洲退蔵。白洲次郎のおじいさんなんですけど、その白洲さん。それから小寺泰次郎。神戸に今、相樂園がありますね、あれは小寺さんの家なんですけれども、そのお孫さん、関西学院の学長や理

事されてましたね、あの小寺先生です、その一族。それから前田兵蔵。彼は本屋さんを元町で開きますけれども。そういう人たちが三田藩に属していて、神戸の開国のために頑張るのです。この人たちは始め志摩三商会（この人たちは元々志摩半島で船を操っていた人たちだったんですけれど）という名前にしました。それから川崎造船が生まれ、松方さんたちもそこへやってくるということになります。神戸は、非常に大事な進歩的な開国派の人たちでみなぎっていたということになるわけです。そこにD・C・グリーンを始めとする宣教師たちがやってきました。で、特にデイヴィスさんがたまたま有馬の温泉に入っていたときに、この九鬼隆義とばったり出会い、英語学校を始めてくれということが始めたのが、宇治野の英語学校で、どちらかというと三田藩の子女たちのための英語の教育をする場所で、いつてみれば寺子屋なんですね。小学校のようなところです。だから男も女も年取った人も若い人もみんな一緒に英語を教えてもらうという、こういうことで始まったのです。これが一八七二年で、このときまだタルカットさん、ダッドレーさんは来てなかったんです。宇治野の学校がどこにあったのか、今調べているのですけれども、ちよつとまだわかりません。多分現在の神戸大学医学部のちよつと東側のあたりじゃないのかなと思います。<sup>③</sup>

そこへ、その翌年（一八七三年）に神戸にやって来たタルカットさん、ダッドレーさんが手伝いにいくのですけれども、一八七三年の十月にはそこから独立して私塾を開きます。それは、前田兵蔵さんの家です。この前田さんは本屋さんを始めます。今の元町通四丁目と五丁目の間に家があったというので、わざわざきんつばの「本高砂屋」の先まで行ってみたのですけれども、今は何もないのでわかりません。

この前、タルカット、ダッドレー先生たちが船で着いて、どうやって神戸女学院まで行ったか歩いてみたんですが、皆さんも一度やってみてください。メリケン波止場のところからまっすぐ北に上がったら大丸に来ます。大丸からす

ぐ元町通に入って二丁目、三丁目のところを北に上がるんです。そうするとJ Rが上を通ってますね。もう一つ発見したんですけども、あの「元町」の駅は元々三ノ宮駅だったんですね。そこを越して北側は北長狭という町名です。そこに実は白洲さんが家を持っていました。あとで私塾はそこに移ってくるようになります。そこから更に北へ行くと現在の兵庫県警があつて、道がちよつと曲がついて、そして県庁がありますね。ここで山手通を越して、次のブロックの角っこが小寺さんの相楽園。相楽園の北側が現在山本通になつていて、そこから右へ曲がつたところが神戸女学院の発祥の地なのです。たった一・五kmくらいしかないのです。ですから皆さん、遊び半分には一回そこを歩いてみてください。来年でしたか、オリエンタルホテルが元の位置に開設されることになりますが、あそこにはたくさん人力車が並んでいる写真があるので、多分人力車でいったんではないかなと考えられます。

ここで話を元に戻します。前田兵蔵さんのお宅でタルカット、ダッドレー先生が私塾を開かれました。これが元町四丁目と五丁目の間。それから、ここが手狭になつたので、北長狭通の白洲さんの家に移ることになります。この前田さんの家の別宅、つまり隣の借家で、D・C・グリーンがキリスト教の礼拝を始めました。これが摂津第一公会、現在の神戸教会です。西日本で初めてのプロテスタントの教会が神戸に出来たということになります。一方私塾の方は、白洲さんの家ではじめたところ、タルカット、ダッドレーさんがどうしても女子の寄宿学校を作りたいと思い、山本通四丁目に移つたのが一八七五年の十月十二日です。調べてわかつたのですが、神戸女学院関係の本ではほとんど山本通五丁目と書いてあるのですが、現在の四丁目ですね<sup>④</sup>。ここに学校が作られました。先ほど申し上げたようにこれは小学校レベルです。ただ寮があつてそこに住ませたのです。だから元々は三田藩の子女たちの教育の場となつて、寄宿舎です。そこで一番最初にできた建物は、宣教師の住む家に生徒たちが入っているという感覚です。一番これに近い建物は、現在岡田山にあるケンウッドです。もちろんケンウッドよりもうちよつと大きかったのですが、

それが一番最初の建物でした。

そしてこの後、教育制度がだんだんと整ってきて、内容も建物も変わっていくのですが、まず高等科が設置されます。『神戸女学院百年史 総説』の一番最後の所に学校制度がどう変わっていったのか、神戸女学院の学科の名前がどう変わったのかが一覧表になっていますので、それをご覧ください。一応、大雑把に述べれば、一八八五年明治十八年に高等科ができます。これがちに現在の大学になります。一九〇六年に音楽科新設です。一九〇九年明治四十二年に専門部設置。四年制の専門部になって、これが一九一九年に大学部として認められる。神戸女学院は、最初小学校レベルで始まって、それから女学校の形となり、その上に大学が作られたのです。それに伴って建物を増やさないといけなくなりました。これは川島先生がだいぶ綿密に調べられました。全部出来上がったときの模型が図書館本館の一階のロビーのところにあります。建物の一覧表もあるのですが、つぶして作ったりしているのですが、要するに、全部で二一棟作ったのです。すごいものです。一番最初は教師館、先ほど申し上げた南の建物、一八七五年、寄宿舎です。第一期のときにあと寮ができる。中舎という名前が出てきましたが、懐かしい名前が出てきましたね、岡田山の神戸女学院も昔と今と全然変わってしまつて、うまく説明できないのですけれども、今の寮の東側に、東寮という中高部の寮があったのですが、その間の建物を中舎と呼んでいました。これは山本通時代の建物の名前から来た名前です。それから西、西舎という西の建物と東の建物。これも寮なのですけれど、第一期に作っています。高等科ができたときに、今度は理化学館と音楽館ができました。おもしろいことに両方とも塔があるんですね。それから第三期で、専門部ができた一九〇六年（明治三十九年）以降に、今度は葆光館とか講堂ができて、更に体育館が出来上がって、最後に家斉館を作ります。設計者を見てみると、おもしろいことに先ほど言ったデイヴィスさん、アッ



キンソンちゃん(John Laidlaw Atkinson) (この人もまた教会を作った宣教師なのです)、それからホルブルックさん(Mary Anna Holbrook) (神戸女学院の先生だった人)が自分で設計して作っている建物もありました。オルチンさん(George Allchin)も設計しています。オルチンさんはだいぶ設計しているんです。震災前の大阪の九條教会も実は設計しました。彼は讃美歌だけでなく建物も作ったのですね。それから先ほど最後に出た家斉館というのが、ヴォーリズさんが最初に手がけた建物なのです。この建物がここに移ってきて、前の同窓会館になりました。昔からここにいらつしやる方はおぼえていらつしやると思いますが、寮の手前に木造の建物が一つありましたよね。あれがヴォーリズさんが一番最初に(ヴォーリズさんが直接やったんじゃないやなくてヴォーリズさんのお弟子さんがいつてやったようですけれども)、作ったものでした。あの建物は、残しておいて欲しかったですね。一時岡田山ロッジと呼んで使っていましたが、その後つぶしちゃったそうですけど、惜しいことでしたね。あれは神戸の建物そのままだったわけです。

そういうことで、神戸女学院の建物は、三段階に分かれて、小学校レベル、女学校、高等科を作ったとき、それから専門部、大学部を作ったときの三段階で、順繰りに土地を買って、最後は諏訪山のふもとまで買っています。その一覧表があるのですが、<sup>⑤</sup>そうやって神戸女学院の神戸時代が一応完成したわけです。でもここでは、今申し上げたように設計者が皆違っていますので、統一した考え方はありません。むしろ小学校から立ち上がって、女学校そして上の専門部、大学を作ったということになります。

一九二一年(大正十年)にここでは手狭なので、大学部だけを大蔵谷キャンパスに移すという計画が出てきました。現在の朝霧のあたりです。ここはとてもいい場所で、岡田山と一緒に坂になっていて、坂を上ると南側の海を隔てて淡路島が見えるというわけです。それで、この設計者は誰に頼んだかというと、当時上海に居たマーフィー

(Murphy)という人です。この人は何回もそこに来て、設計をしていきました。そこで、神戸女学院の教育の理念を考えながら、非常によく考えられました建物になっています。上がつてくるとまずチャペルがあつて、総務館があつて、両脇に大学の建物が広がっていて（文学館と理学館です）、そして運動場があつて、その奥が寄宿舎になっています。とってもきれいな設計図になっているのです。そして日本庭園まで考えていました。これは完成すればおもしろかつたと思います。でもなぜそちらに移ろうとしたかという点、明石というロケーションがすばらしく、風光明媚なところであるというので、大体大学生七〇〇名から一、〇〇〇名を考えて、一九二八年（大正十七年）完成予定でこれを設計し始めました。ところが、ご存知のように一九二三年（大正十二年）、関東大震災がおこりました。それで先ほど申し上げたように、横浜居留地はつぶれてしまったのです。そこで、地質がどうかという問題が起りました。それからもつと大きな問題は、神戸女学院で中高部と大学部が分かれることがよくないのではないかという意見が出ています。そしてもう一つは、ここよりも阪神間の方がより便利なのではないかという考え方も出てきて、当時、阪急の小林一三さんが、今の今津線を開発したために関西学院を原田の森から上ヶ原へ移して、神戸女学院もこちへ移らないかと誘われたようです。ですから、始めの頃、神戸から神戸女学院行きの電車が出ていたという事実もあるくらいです。そういうことで、この大蔵谷キャンパスは、幻になってしまいました。でもここで既に、マーフイーさんが設計したにもかかわらず、やっぱりチャペルがあり、総務館、文学館、理学館があつて、音楽館が奥にあり、寮がある。そして中庭があつて、日本庭園があるという風に考えられていました。これはまず覚えておいてください。中高大のリベラルアーツの教育ということが、神戸女学院の基本にあつたのですけれども、ここ大蔵谷のキャンパスでは大学部だけを考えていたんですね。それと更にもう一つ、ここに移ってきた理由は、本当かどうかかわらないんですけれども、西宮は雨が少ないといわれていたのです。それで甲子園球場ができ、そして阪神タイガースができ、

阪急も作るようになって、阪急西宮球場(今の西宮ガーデンズ)を作ったんです。(私は阪急ファンでした。)でもこれは本当かどうかわかりません。

それで今度は土地探しに入ったわけです。で、先ほど申し上げたように、ここは尼崎藩で、尼崎城主・松平忠興が城主で、別荘がここ岡田山だったんです。今の岡田神社の横のところにちよつと石垣があるでしょう。あれがその入口だったんです。多分今の講堂辺りまでの一帯が櫻井さん、つまり、松平さんの土地だったんです。松平さんは廃藩置県のとくに苗字を櫻井に変えたのです。そのために、ここは櫻井邸と言われていますが、それは松平さんのことなのです。松平さんはここを売り払って東京に移ってしまいました。そしてその息子さん、松平忠胤は大正天皇と親しかったのです。ちよつとおもしろいデータがあります。大正天皇が皇太子のときに、武庫川で陸軍と海軍の演習があったのです。ところが大正天皇はこれが大嫌い、馬に乗ってこの場所に上がってきているのです。まだ神戸女学院ではないのですけれども、松平さんのところまで遊びに抜け出してきた、お付きの人に引つ張られて戻るんですけど、もう一回戻ってきておられます。これが一九一一年(明治四十四年)十一月二十日の話です。御野立所という場所(現在のデフォレスト記念館横駐車場の南側)があるのはそのせいですね。こういうことを是非覚えておいてください。そういうことで、先ほど申し上げたように大蔵谷の土地と交換して購入するんです。そのとき二万坪だったんです。この土地は入口は今と同じだったのですけれども、講堂のあたりまで。一応二万坪でした。実はその二万坪で、設計をヴォーリズさんに頼んだのです。ヴォーリズさんは、今までにいくつか学校の設計をされていましたが、これほど大々的な教育キャンパスは作っていなかったのです。それで彼は考えたんです。多分マーフィーさんの設計図を参考にして、二万坪のときの設計図を作りました。これもやっぱり、入ってきて音楽学部があつて(これは今と一緒なん

ですが、上がってきて今のデフォレスト館のあたりが総務館、チャペルがあつて、文学館、理学館があつて、向こうが運動場になつて、その向こうは寮、という風になつてゐるのです。ところがこれでは土地が狭いということで、そのときこの辺の門戸の町長さんが松本さん（かつて経理部長だった松本政彦さんのおじいさんになるんですかね）方から土地を、全部じゃないんですけど、あとから他からも買つてゐるんですけども、全部買い足して三万四千坪になつたのです。これで今の土地になりました。それでもう一回改めて設計をやり直したのです。それが今の神戸女学院の基本になつたわけです。

そこで現在の神戸女学院の配置図をご覧ください。建物の配置の基本は、是非知つておいていただきたいです。先ほどから申し上げておりますようにこの神戸女学院は、リベラルアーツ カレッジですので、リテラチャー アンド サイエンスとコンサーバトリーなんですね。文科、理科、音楽（芸術）、この三つを教育の理念とする考え方でこの設計ができてゐるのです。ヴォーリズ設計事務所の石田忠範君と一生懸命にその理念について話して、わかつてきたことがあります。それはこの配置には、中央線があるということです。今私の立つてゐるところが中央線になつてゐます。この配置図から見ますと、図書館の真ん中から中庭にその線があつて、そのまま講堂を突き抜けて、藤棚を通つてグラウンドの真ん中にくつてゐるのです。これが神戸女学院の中央線です。この中央線に沿つて南側にクワドラングル（四角型）を作り、一番向こうに総務館とチャペル、その向かい側にこの図書館を作り、そして東側に文学館、西側に理学館を作りました。音楽学部は音が出るので下に配置してゐます。これでリテラチャー アンド サイエンスとコンサーバトリーという理念がびたつと合ふんです。

実は私はアメリカのオハイオ州にありますオベリン大学の神学部におりました。神学部は大学院だったんですけれ

ども、学部の方はアメリカで最も有名な大学の一つで、そこもリベラルアーツ カレッジで、そこは逆に真ん中に森があつて、南側の中央にチャペルと教会が置かれ、神学部があつて、森の周りに文学、理学とコンサーバトリーがあるという、構造になっています。現在は一八〇年目くらいだったと思います。この大学はアメリカで初めて女性とネイティブアメリカンを大学に入れた大学ということで、非常に高いプライドを持っているカレッジなのです。学生が大体八〇〇人でリベラルアーツの理念がここできれいに表現されているのです。

この建物(図書館本館)、今日ここでこの講演ができるのは非常にありがたいのです。この神戸女学院の配置の中央線を是非いつも大事にして欲しいのです。文学、理学を学び、音楽を学び、そして永遠なる者の前に膝まづく、こういう構想ですね。そしてこの線上から今度は二本横に線を出して、始めの一本の線上に中高部を置き、その次の線上に住宅地域を置いたんです。だから一番最初に寮があつて、北寮(震災にあつてなくなつてしまつたんですけど、前の寮を知っていらつしやる方はご存知ですね、ひし形になってましたでしょう。設計図によれば南寮のあつたところにももう一つひし形を作る予定でしたが、それができなくなつて、南寮をああい建物にして、今これを岡田山口ロッジと呼んでいるんですね。そこから中高生の寮になる東寮を一番奥に置きました。北寮と南寮の真ん中の建物が中舎で、教職員の人たちがそこに住む格好になっていたのです。そして奥に宣教師の住宅を置きました。ケンウッドはそのまま先ほど申し上げたように神戸女学院の神戸時代の面影が残っている建物です。その先にエッジウッド。これは全部宣教師の人たちが始め居られました。それからもう一つグリーンウッド。これはつぶれてしまいました。それから茶室が、現在のアンジー・クルー館の手前、シェイクスピアガーデンの横にあつたのですけれども、これも震災できれいにつぶれてしまいました。

ここで皆さんに是非見ていただきたいのは、やはりここで、大学で文科、理科そして芸術を学ぶだけでなく、本当は中高大という一〇年間の中で、ここで学んでいたくということが、元々の建物の主旨だったのです。ただ始めは大学生の数を五〇〇人としか考えていなかったのです。現在は二、六〇〇人ですから、いろいろな建物を作らないといけなくなってしまったのは非常に残念といえれば残念ですけど、でも、今の時代に合わせるために仕方なかったのでしょうか。

こういうことで私は、NHKで隈先生が「包み込まれるような雰囲気」とおっしゃったんですけど、もう少し加えさせてもらうならば、こういうリベラルアーツという文科、理科、芸術を身に付けながら、永遠の前に包み込まれているという雰囲気、クリスチャンになるかならないかは別として、そういう雰囲気の中でこの大学生活、中高の生活を送っていった欲しいというのが、本来の建物の目的であつたのではないか、こういう風に考えるわけです。

もう一つ言い忘れましたが、実は大蔵谷からこちらに移る頃、関東大震災が一九二三年なんですけど、その少し前の一九二〇年にシカゴ・コーポレーション(Kode College Corporation)ができて、神戸女学院を支えてくださることになりました。その責任者がモーゼス スミス夫人(Mrs. Emily White Smith)という女性でした。実は、ここの講堂にはモーゼス スミス夫人記念講堂という名がついています。今申しましたこの神戸女学院の建物の説明の載っている本(『新築記念帖』)を覆刻しました。<sup>⑥</sup>一九三〇年に土地を買ってこの建物を三年間で作るのですけれども(この年は、私の生まれた年なのですけれども)、その後、何が起こったかわかりですね。アメリカの大恐慌があつたのです。土地は先ほど申し上げたように同窓会が買われて、竹中さんがサポートしてくれて、買えたわけですけれども、建物は全部アメリカからの献金で作られることになったのですけれども、なかなかお金が集まらない。どうしたかといえ、コーポ

レーションのそれぞれの人たちはシカゴ近辺の教会や学校にアビールされたんです。そのために一つ一つの部屋は個人とか、ある教会の青年会、婦人会などからの寄贈によるのです。この建物の一つ一つは、そういう人たちの心からの献金で出来上がっているのです。もちろん、ドルが高く、円が安かったということもありました。私は学生諸君に言っていたのですけれども、今は、アジアとかアフリカとかに、私たちが献金を捧げれば、その一〇倍、二〇倍の形で向こうに貢献できるんじゃないか、だからそういう奉仕の仕方もあるのですと。ちなみに、L-1はブライアント夫人の献金によるもの、L-10はロックフォード大学の学生有志によるもの、体育館正面にある階段は、カリフォルニア州のブランソン スクールの生徒の有志によるものなのです。全部ここに誰が献金したかという一覧表が出ていますので、是非ご覧になってください。

それからもう一つ言いたいことがあります。ヴォーリズさんの設計はとても素晴らしいのですけれども、彼の設計に欠点が一つあります。これは、かつてヴォーリズさんと一緒に旅行したことがあって、私はその時に、「建物はいいけれど、やっぱりパイプオルガンがあつたらいいですね」といったら、ヴォーリズさんが「専門家に目隠ししてハモンドオルガンとパイプオルガンを聞かせたら、どつちか区別がつかなかった」と言われました。ヴォーリズさんの設計は、パイプオルガンに全然合わないのです。ですから講堂の上のパイプオルガンは、関西でも一、二を争う大きなパイプオルガン（あれは震災のとき、パイプが全部飛び出して、全部入れ替えて、結局ボツシユのパイプが今入ってるんですけれども）、講堂の中ではエコーが少ないんです。ここ（図書館本館閲覧室）はちよつとエコーがあるので、私の声はちよつとエコーしてるのですけれど、エコーがないとパイプオルガンはきれいに聞こえません。だから神戸女学院の中で一番きれいに聞こえるパイプオルガンは、ご存知のようにソールチャペルなんです。ところがソールチャペルは欠点

があるでしょう。ステージに立ってしゃべられたら、私たちでもよほど注意しないと後ろまで聞こえないんです。肉声が聞こえない。その点、講堂の方はステージに立って、中高生がいっぱい入っていても、マイクなしでも壇上から声を出して一番後ろまで聞こえるようになってるんですね。廊下のレベルと壇上のレベルが一緒なんです。ということは、座席の位置が一メートル以上下がってきてるんですね。そのために肉声がとてきれいに聞こえるように設計されているのです。講堂のパイプオルガンが一番きれいに聞こえるのはトイレの中なんです、エコーしますから。それできれいに聞こえるのです。

さて、リベラルアーツの問題について触れてみます。世界思想社から出ている雑誌の二〇〇九年の春の号は「大学の教養」という特集になっていまして、その中の第一部の猪木武徳さんと第三部の内山勝利さんの論文をコピーしてもらいました。あとでは是非ゆっくりお読みになってください。猪木さんは、今のところ大学（神戸女学院もそうだと思いますけれども）は、教養科目と専門科目という風に分けてしまったのが日本の教育の失敗だというわけです。ここでリベラルアーツを、大学では結局その専門になる前の教養科目としてしまったのです。本当はリベラルアーツというのは、キケロがいうように、これは「アレーター」、「知的な洗練」が要求される、という風に書いています。それを学ぶためには古典、クラシックスを学ぶということが必要だと主張しておられます。そのためケンブリッジやオックスフォードではラテン語を必修にしているわけですけども、それで少し無理しても、古典的なものをきっちり読み、その豊かさを示すのだということを猪木さんは言っています。今の神戸女学院大学の教育のシステムでどれだけそれが現実化されるか私にはわかりません。今後皆さんと一緒に考えていただきたいと思います。それから内山さんは「知の制度化を超える力」というものですが、これもやはり単に人文、社会なんて分けるよりも、やっぱり「アレー



「テ」、「徳」を中心にする必要があるといっています。優れた人間性、そして豊かな人間性を養う、よく生きるためには知恵というものを考えるべきだと彼は言っています。これはギリシャ語の「アレーテ」の意味から言ってるんですけれども、聖書の方から言いますと、「アレーテ」というのは「よい行い」、「徳」、そして「神の力がそこに示されること」、という意味を持っているわけで、できたらこういうことが神戸女学院の中高大の教育の中で何らかの形で具体化できたらどんなにすばらしいかと思うわけです。

基本的に申し上げたいのはここまでなんですが、二、三余談ですが、私の経験したことを申し上げたいと思います。実は神戸女学院は戦争中に直接の爆弾は落ちていないんですが、ああそうですね、ここにはどれくらいその時のことをご存知の方がいらっしゃるか聞いてみたいです。一九四五年、私は旧制北野中学の三年生でした。大阪の戦災で家が焼けて、西宮北口の親戚の家におりました。勤労動員で神埼川の工場に行っていたのですが、空襲のために幾度も西宮北口まで歩いて帰ってきたんですよ。七月十四日、実はあの日の朝だったんですが、私は西宮北口まで行って、電車に乗ろうと思ったら、空襲警報が鳴って足止めされました。ちょうど北口の真上、何キロくらいでしょう、二キロ、三キロくらい上でしょうか、きれいなブルースカイ、そこでB29が編隊を組んで爆弾を落とすんです。そうすると芥子粒のようなものが一杯見えるんですね。そしてその爆弾は四五度に落ちますので、北口上空で落とすとちょうど仁川、今の競馬場、あれが川西航空の工場だったんですが、そこに全部集中して落ちたんです。それで、もしあれが勤労動員の学生が居たときだったら死者一三三人ではすまなかったと思います。もう何千人という人が死んだと思います。ものすごい爆撃でした。で、電車が通らないと思って家に帰ったんです。家に帰ってもまだ爆撃が続いてたんですよ。天井からごみがどーっと落ちてきていました。それが七月十四日でした。八月六日、もう一回爆撃があっ

たのですが、そのときは間違つて文学館の屋根の上に落ちたんです。屋根が全部焼けてしまい、あわてて、その時分まだ瓦がこれだけ復活していない時期だったもんですから、黒色の瓦になりました。私が神戸女学院に来たときは、まだ黒色だったんです。一〇〇周年のとき（一九八五年）に、竹中工務店の人たちと相談して、この瓦屋さんはまだそのまま淡路に居られたので、元の色に戻すことにしました。理学館のほうは創設時に入れたままの瓦です。文学館の方は、震災でまたつぶれましたので、また作り変えたのです。何色あると思います。実は七色もあるんです。どうして七色になったのか聞いたのですけれど、瓦屋さんもわからないのです。昔の技術が悪かったので、塗ってる間にだんだん変わってきたんじゃないかという意見もあるのですけれども、今はもうきれいに色が合うもんですから、わざわざ七色の瓦を焼いて、石田さんと一緒にマイクで、乱数表も用いて、工事の人が上にいて、何番何番と言いながら重ねていったんです。あれ一億円近くかかったと思います。でそれが震災のときにまたつぶれちゃったんです。そこでまた同じようにして七色の瓦を入れたんです。後で瓦屋さんに聞いたら、「七色だったでしょ、今度は一三色にしたよ」って言うのです。それはどこですか。この図書館の上でしょうか。そのために色に奥深さが出ているのですよね。ちよつと悪口言いますね。震災でケンウッドを直したんです。ケンウッドの屋根は元々七色の瓦が入っていたはずです。そのとき、この考えを知らなかったのではないのでしょうか、一色の瓦で葺いてしまったのです。私は怒鳴り込んでいったんですよ、総務に。そうしたら「いや最高のものを入れました」と言うのです。だから皆さん、ここの屋根の色を見て、ケンウッドの色と見て比べてみてください。最高のものを入れてもこの色にはかなわないわけです。比べ物にならないんです。これだけこは、凝った建物になってるんです。こういうところもやっぱり大事にしたい。歴代の理事長、院長をはじめ皆さんがこの建物に多大の費用とケアを持って守ってくださいっています。ですから今でもこれだけのものが意味を持っていると思うんですね。

例えばこの天井のデザインはちよつとチャイニーズ風ですけれども、私が来たときはもつとはげていたのですけれども、石田さんが、「これ、設計図どおりやり直す」といつて何年か前に色塗り替えられたのです。そういうことは是非皆さんも見出して、この建物、雰囲気を大切にしたいだと思います。

もう一つ。大学の卒業証書についてです。始めは一枚の大きな紙だったんですね。それを丸めて筒の中に入れて渡していたんです。それをもらった人、ちよつと手を挙げて。歳がわかるようで申し訳ないんですが。ブック形式になった人。こっちの方が多くなってきましたね。あれは実は、河北印刷の猪野節夫さんというデザイナーと相談をして、ブック形式にしようということになったのです。それで私のオペリン時代にもらった学位記が基本になりましたが、ぼろぼろになってきて、「猪野さん、あんまり汚いわ」と言うと、彼は「あなた何を言うんですか。これは本皮だからぼろぼろになったのですよ」と言われて、初めて見直しました。さらに、中を開けるとふちが金で打ってあるのですけれども、これは手打ちなのだそうです。それで、こちらの卒業証書も、それも一枚ずつ、できるだけそれに合わせようとして、試行錯誤しながら何回も形押しして出来上がりました。そして表はバックスキンにして、あのアーチのデザインは、講堂のアーチで、猪野さんのアイデアなのです。

それからもうひとつ言いたいのは、あの中紙です。オペリンの方は羊皮紙で、それにラテン語で書いてあります。日本では羊皮紙というわけにはいかないのです。和紙にしようということになり、猪野さんに聞いたたら、実は鳥根県の山奥で紙を漉いている人が居るので、その人に聞いてみようということになりました。その人はたまたまあの大きさの枠組みと同じものを持ってられたので、それで作ってもらおうということになりました。多分いま今年度の卒業証書をすでに作っていると思います。どうしてかって言うと、あの証書の中に神戸女学院のマークが透かしで入っていますが、作るときあれを中に入れたとき動くと、出来上がったとき神戸女学院のマークが斜めになってしまうので、

それを捨てないといけないんです。だから今から作っていいと間に合わないんだそうです。そうして出来上がって卒業生にお渡ししているのです。

もう一つ言いたいことがあります。ブック形式を始めてから二、三年あとになって、その人がもうひとつプロセスを加えたらもっといいのができますって言ってきたのです。でも神戸女学院、財政難ですからそんな贅沢できないかもしれない。まあ一回持ってきてご覧といつて、持ってきてもらったんです。見ると、今までのよりもちよつと色が黒くなっているんです。パツと見たとき、あつ前の白い方がいいなという印象になるのです。係りの人が待っているので、ちよつと待たせておいて、ちょうど四年生のキリスト教学の授業でしたので、「あなたたちの卒業証書、どつちか好きな方選びなさい。」と授業中に回したのです。授業終わってからどつちがいいって聞いたたら、真ん中に居た学生が立ち上がって、こつちですって言って、黒い方を選びました。私は驚いて、「あなたはどうしてわかるの」と聞いたたら、「私、家で紙漉いてます」と言われました。これなんです。教員も職員も大学生も中高生もそれぞれの人の持つてゐる文化的なものを、やつぱりできるだけ高めていつて欲しいのです。単に制度だけを用いるのではなくて、一人一人の持つてゐる文化の内容のレベルを高くする、これを是非心がけて欲しいと思います。

そういうことで先ほどの論文にもありましたように、洗練された知性と豊かな人生観、そしてできたら永遠を畏れ愛する生活ということを基礎にした教育をこの学院で皆さんに頑張っていたきたい。そして一三五年になるこの歴史、これは新しく出来た大学ではできないんですね、これまで紆余曲折、いろいろありますけれども、しかしこれだけ積み重なってきたものの上に、さらに深く高く教育の華を咲かせていただきたいということを願つて、一応今日の話は終わることにします。あとで皆さんの意見を聞かせてください。ありがとうございました。

① 川島智生「神戸女学院学舎の建築史学(Ⅰ)―計画されたキャンパス―」『神戸女学院大学論集』第五一卷第一号、二〇〇四年七月、神戸女学院大学研究所。

② 最古の学校は横浜共立学園(米国婦人一致外国伝道協会、一八七一年・山手二二番)、フェリス女学校(オランダ改革派、一八七〇年、一八七五年・山手一七八番)、捜真女学校(バプテスト、一八七五年・山手七五番)、横浜双葉学園(一八七一年・山手八八番)、明治学院(一八八七年)。

③ 宇治野英語学校は、一八七二年二月から始まり、一八七三年十一月から翌年一月ごろに廃校になっている。これは「明治初期神戸伝道と三田藩士」というホームページに書かれている。宣教師文書の引用もされているので、ある程度信頼できであろう。それによると、学校のあった場所は、現在の神戸教会(花隈町九一―一六)の近くと推定されている。

④ 神戸史学会発行の『神戸の町名』(改訂版、神戸史学会編、二〇〇七年、神戸新聞総合出版センター)によると、山本通は一八七四年(明治七年)年に出来て、始め六丁目までであったようである。その後、一八九四年(明治二十七年)年に五丁目までに変更になっている。この記述によると、始めは単に通の名前というのではなく、町名として通に面した一体の地域の名前として名が付付けられたようにも読める。神戸女学院関係の本に「五丁目」とあるのは、もしかすると、六丁目までであった当時は現在の四丁目あたりが五丁目であった可能性も考えられる。

また、宣教師文書の中に、次のような一節がある。「神戸でかねて取り沙汰されておりました新しい道路が実際に造られ始めました。私どもはこれが正門のすぐ前を通ると予想しておりましたが、そうではなく四〇フィートばかり離れております。」(一八八八年八月十四日附ブラウン書簡第二八八号―『学院史料』第九号四五頁参照)。

「新しい道路」は山本通のことであるから、これから考えると、一八七四年に通としてすぐに整備されたわけではなく、徐々にできていったことになる。やはり『神戸の町名』にあるように町(地域)名が先について、あとから通にその名がついたと考えられる。

⑤ 『創立五十年神戸女学院史』(神戸女学院五拾年祝賀会、一九二五年)一〇〇頁。

⑥ 『岡田山の五十年』(神戸女学院、一九八四年)。

⑦ 『世界思想』第三六号(世界思想社、二〇〇九年)。

〔付記〕

この原稿は、二〇〇九年七月二十四日に図書館本館二階閲覧室において開催された二〇〇九年度学院リトリートの際の茂先生のご講演を元に、加筆訂正したものである。茂先生は学院チャプレンとして長く学院で活躍され、名誉教授となられてから一度々、大学でご講演くださるなど、神戸女学院の教育理念についてもこれまで多くの発言をしてこられた。この機会に学院の建学の精神を見直す一助となれればと願い、掲載をお願いした次第である。

（文責：佐伯裕加恵）